

第48回 令和元年

新潟県指定無形民俗文化財

三条かぐら鑑賞会

日時 10月6日(日) 午後1時開演

会場 三条市中央公民館大ホール



主催 三 条 市
三条神楽保存会

プログラム

- | | | | |
|---|-----------|------------|-------|
| 1 | 開会のことば | 三条神楽保存会会長 | 石月 恒雄 |
| 2 | 主催者あいさつ | 三条市長 | 國定 勇人 |
| 3 | かぐらの演舞 | (解説) 神明宮禰宜 | 三上 正行 |
| | (1) 先稚児の舞 | 田 島 | 諏訪神社 |
| | (2) 先稚児の舞 | 大 崎 | 中山神社 |
| | (3) 先稚児の舞 | 塚野目 | 白山神社 |
| | (4) 乙女舞 | 保 内 | 小布勢神社 |
| | (5) 榊の舞 | 大 崎 | 中山神社 |
| | (6) 天川の舞 | 田 島 | 諏訪神社 |
| | (7) 羽返の舞 | 塚野目 | 白山神社 |
| | (8) 三座返の舞 | 保 内 | 小布勢神社 |
| | (9) 福神遊の舞 | 三 条 | 八幡宮 |
| | (10) 奉幣の舞 | 一ノ木戸 | 神明宮 |
| 4 | 閉会のことば | 三条神楽保存会副会長 | 高野 久昭 |

1 ^{さきちご}先稚児の舞

神楽の最初に舞う稚児舞です。舞は二人のときと一人で舞うときとありますが、一人舞のことが多くあります。神々の大前で静かに祈りを捧げるものです。

春、夏、秋、冬の今様が楽屋で歌われます。今様とは、平安時代末の歌曲の総称です。

【囃子】先稚児拍子

【装束】天冠・狩衣

【採物】鈴・扇

田 島 諏訪神社



2 ^{さきちご}先稚児の舞

大 崎 中山神社

3 ^{さきちご}先稚児の舞

塚 野 目 白山神社



大崎 中山神社



塚野目 白山神社

4 おとめ 乙女舞

保 内 小布勢神社



4人の稚児舞です。神代より宮中で舞われてきたもので、乙女たちが大神の大前に、神心安かれと舞ったと伝えられています。

【囃子】乙女拍子

【装束】天冠・狩衣・切袴

【採物】榊

5 さかさ 榊の舞

大 崎 中山神社

稚児四人によって舞われる舞です。

天孫降臨の折、^{さるだひこおおかみ}猿田彦大神は天孫の降臨の道すがら、榊をもって、悪神たちを打ち平げたという故実による舞です。

【囃子】榊拍子

【装束】天冠・髪に蝶型・曲・青狩衣・紫袴

【採物】榊

【装束】金欄法被差袴毛頭（大）

【採物】劔



6 あまがわ 天川の舞

田 島 諏 訪 神 社

天の岩戸開きにあたって、舞の上手な神様であるアメノウズメノミコトが桶の上で舞い踊られた故事によるものです。

舞は、能の羽衣の天女の舞を模したものとわれています。舞の装束は、平安時代の白拍子(遊芸を業とする女性)姿に類似していて、たくましい男性が、鈴と扇を優雅にあやつりながら若い女性の姿態で舞うむつかしい舞です。



【囃子】天川拍子

【装束】静鳥帽子・女まげ・赤単・狩衣・奴袴

【採物】鈴・扇

7 はがえし 羽返の舞

塚 野 目 白 山 神 社

稚児4人で舞う。天岩戸の変の時、岩戸の前で羽根扇を両手に持ち、大神のおでましを一時も早くと、国土四神に、岩戸前に参集なされた神々が祈りを捧げられた事に由来する舞です。

【囃子】羽返拍子

【装束】天冠・白狩衣・青袴
首に曲玉をかける

【採物】扇2本



8 さんざがえし 三座返の舞



保内 小布勢神社

神輿の渡御に先立ち、御神霊を神輿にお移しし、出発のとき神輿の前で舞い、無事にお帰りになるように祈る舞です。

神輿渡御の際は素面で舞いますが、宵祭りのときは面をつけます。

【囃子】大満

【装束】狩衣・差貫袴

【採物】鈴・扇

9 ふくじんあそび 福神遊の舞

恵比寿、大黒の舞です。互いに失敗を無言劇風にからかい合いながら舞は進められ、最後に恵比寿が大きな鯛を釣りあげ、大黒も大いに協力し喜び合います。

恵比寿が大きな鯛をかかえて退場すると、大黒は拝観者に菓子を撒いて退出します。

【囃子】三拍子・大黒一人になった時は神拍子

【装束】

大黒一大黒頭巾・狩衣・奴袴

恵比寿一風折烏帽子又は侍烏帽子・狩衣・奴袴・白脚絆・禅

【面】大黒一大黒面

恵比寿一恵比寿面

【採物】大黒一槌・袋・扇子

恵比寿一釣竿・扇子

三 条 八 幡 宮



一ノ木戸 神明 宮



天岩戸の変の折天香山の五百津真賢木を根こぎに

して、その下枝に白和幣と青和幣をかけたれ、天児屋根

命が、天照大神の岩戸からの岩戸からのお出ましを願う祝詞を奉上了た故実に基づく舞です。

なお、この舞は岩戸開きの舞の最後に舞われるものですが、これだけを取り出し、その日の舞列の最後に舞われています。

【囃子】羽返拍手

【装束】狩衣・切袴・立烏帽子

【面】 奉幣面又は素面

【採物】 鈴・幣

三条神楽が見られる日と場所 (奉納日程)

八 幡 宮	(三条市八幡町12番18号)			
春季本祭	5月16日 午後	秋季本祭	9月15日 午後	
神 明 宮	(三条市神明町3番9号)			
春季宵宮	4月28日 夜	春季本祭	4月29日 午後、夜	
秋季宵宮	9月22日 夜	秋季本祭	9月23日 午後、夜	
献灯祭	1月14日 夜			
諏訪神社	(三条市田島二丁目11番9号)			
春季宵宮	本祭りの前日 夜	春季本祭	4月第2日曜日 午後	
秋季宵宮	本祭りの前日 夜	秋季本祭	9月第2日曜日 午後	
白山神社	(三条市塚野目五丁目16番14号)			
春季宵宮	4月17日 夜	春季本祭	4月18日 午後	
秋季宵宮	本祭りの前日 夜	秋季本祭	9月最終日曜日 午後	
中山神社	(三条市西大崎二丁目23番16号)			
春季宵宮	本祭りの前日 夜	春季本祭	4月第3日曜日 午後	
秋季宵宮	本祭りの前日 夜	秋季本祭	9月第3日曜日 午後	
小布勢神社	(三条市上保内丙1288番地)			
春季宵宮	4月14日 夜	春季本祭	4月15日 午後	
秋季宵宮	本祭りの前日 夜	秋季本祭	敬老の日 午後	

三 条 神 楽 の 由 来

三条神楽は、出雲神楽系統に属する神楽です。出雲神楽は、岩戸開き神話を中心とし、その他古くから出雲大社に伝わる神事や、神社の縁起を新たに取り入れ演じられた神楽です。その出雲流の神楽が、山陰から北陸を経て三条の地に伝えられたものと考えられます。

江戸時代の文化8年（1811）には、三条（八幡宮）で神楽が舞われていたことが、古記録に残っていることから、その起源はさらに遡るものとみられます。

ふつう5舞か7舞を伝えるものが多いなかで、三条神楽は32舞も保存されていて、たいへん珍しいため、昭和38年3月、県の無形民俗文化財に指定されました。

このようにすぐれた郷土芸能を、広く市民のみなさんから知っていただき、後世に伝えるため、三条市および三条神楽保存会では、後継者の育成に努めています。研修会や講習会などをおして研鑽を重ねる一方、ビデオや映画に収録したり、本にまとめたりして、当市の伝統芸能の保存をすすめています。

新潟県指定
無形民俗文化財

三条神楽32舞の演目

1 先稚児の舞	9 鳥形の舞	17 天川の舞	25 杵樹の舞
2 宮清の舞	10 羽返の舞	18 奉幣の舞	26 宝剣作の舞
3 悪魔祓の舞	11 岩戸開の舞	19 小弓遊の舞	27 深山錦の舞
4 鎮護鉾の舞	12 地久楽の舞	20 四神の舞	28 神勇の舞
5 久奈戸の舞	13 稲田宮の舞	21 五行の舞	29 五ツ刀の舞
6 五穀撒の舞	14 榊の舞	22 大鉾の舞	30 三座返の舞
7 五穀捧の舞	15 花献の舞	23 天孫降臨の舞	31 宮司舞
8 太平楽の舞	16 福神遊の舞	24 末広の舞	32 乙女舞